



森下町長(左)から諮問を受ける松田委員長 19日夜、若狭町役場三方庁舎

小中校あり方 議論開始

若狭町・規模配置検討委

教育環境改善軸に

小中学校の規模や配置の適正化を考える第1回若狭町学校規模配置適正化検討委員会が19日夜、町役場三方庁舎で開かれた。教育環境の充実や向上を最重要項目に据え、適正化計画を策定していく。

同町ではここ25年間で児童生徒数が約4割減少。特に小学校は児童数、学級数とも県平均を大きく下回り県内最少と

員の任期は2年。開会に先立ち委嘱状が交付され、森下町長は松田委員長に「町の将来を踏まえ活発な議論をお願いしたい」と述べ、諮問した。委員会は非公開で行われ、事務局によると、児童生徒の教育環境の改善を観点の中心に据えることを確認した。5月末までに町内の小学6年生と中学3年生の児童生徒、小中学生の保護者全員、18歳以上の町民約1200人を対象としたアンケートを実施予定で、質問内容は今後検討していくという。慎重な議論を進めたいとして、計画答申の時期を定めていない。(成実宏)

総合教育会議を開き、保護者や地域と共通理解を図りながら統合再編を含めて学校のあり方を検討することを決めた。委員会は、町内小中学校長や有識者らが務める委員17人で構成。委員長は福井大大学院の松田通彦客員教授(66)、アドバイザーには立命館大の桜井政成教授が就いた。委